

平成4年度  
航空保安セミナー  
帰国研修員フォローアップチーム報告書

平成4年12月

国際協力事業団  
東京国際研修センター

東国セ
JR
92-504

平成4年度 航空保安セミナー 帰国研修員フォローアップチーム報告書

平成4年12月

国際協力事業

18 27 118



平成4年度  
航空保安セミナー  
帰国研修員フォローアップチーム報告書



平成4年12月

国際協力事業団  
東京国際研修センター

国際協力事業団

25508

## 序 文

この報告書は、国際協力事業団が、運輸省航空局及び財団法人空港保安事業センター（平成3年度までは社団法人海外運輸コンサルタント協会）の協力のもと実施している、集団研修「航空保安セミナー（旧称：空港管理・保安セミナー）」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、フィリピン国及びタイ国の2か国を対象として派遣されたフォローアップの調査結果を取りまとめたものです。

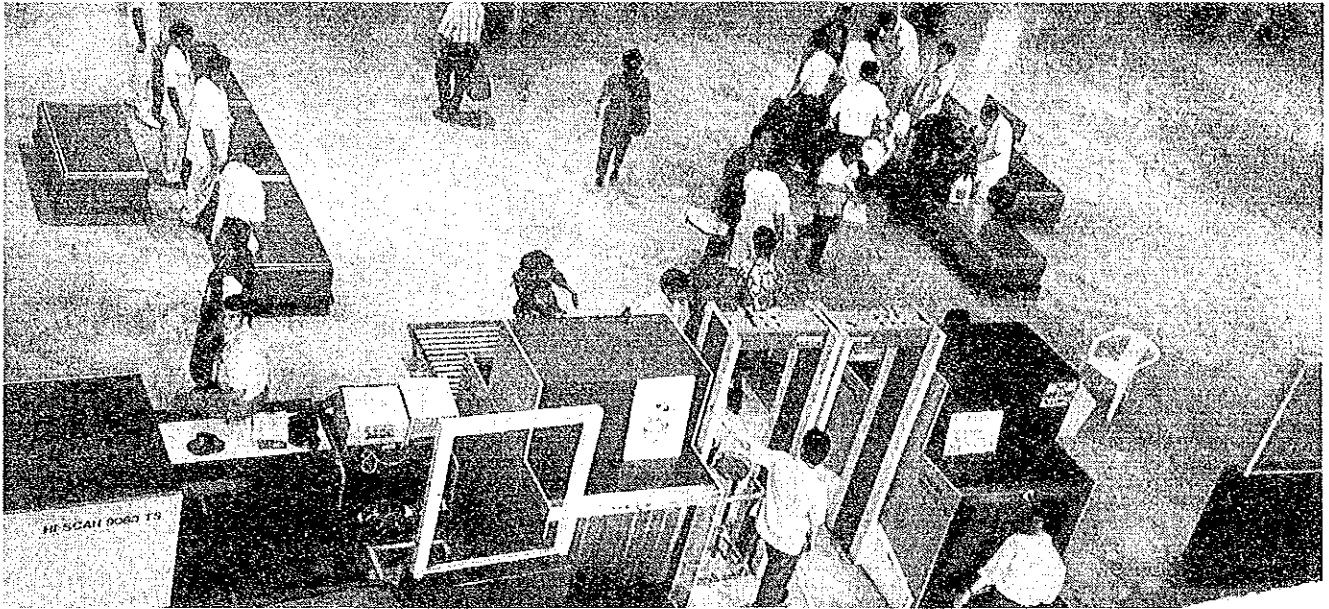
本書が、当該研修分野における各国の実情・問題点、帰国研修員の活動状況及び研修コースに対する要望について、関係各位の一層のご理解の一助となれば幸いです。

なお、今回の調査業務に当たり、多大のご支援、ご協力を賜った外務省、運輸省、在外公館、財団法人空港保安事業センター、日本航空株式会社、JICA在外事務所ならびにその他関係各位に深い感謝の意を表します。

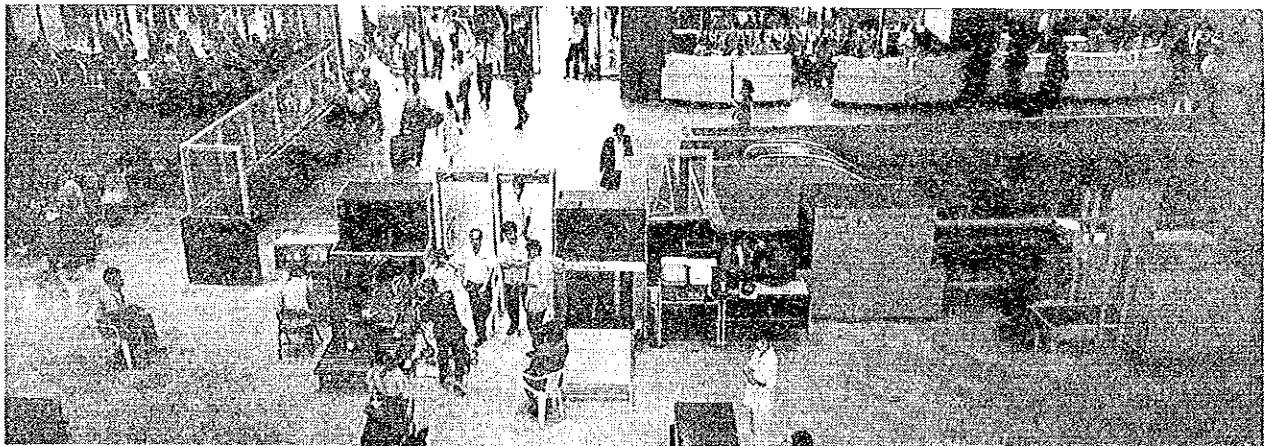
平成4年12月

国際協力事業団  
東京国際研修センター  
所長 田口 定則





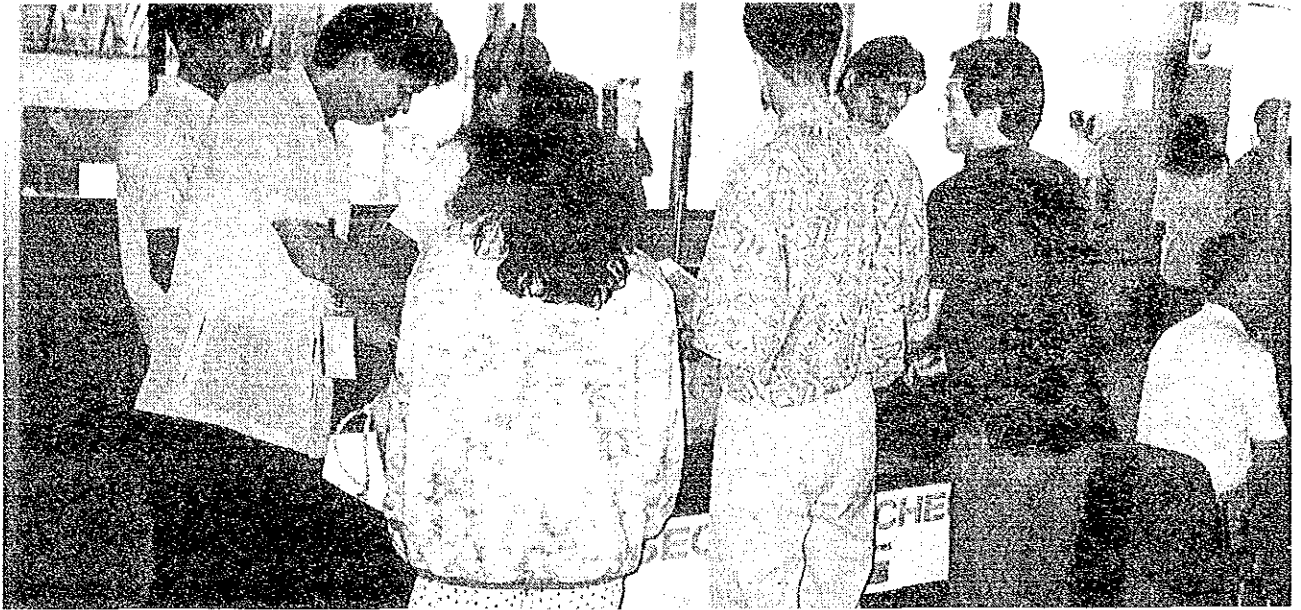
マニラ空港－荷物のX-RAY検査機器及び開被検査風景



マニラ空港－荷物のX-RAY検査機器、左側後方はターミナルビル入口  
(ターミナルビルに入れるのは、搭乗するお客様、空港で働く職員、お金を払った見送り人)





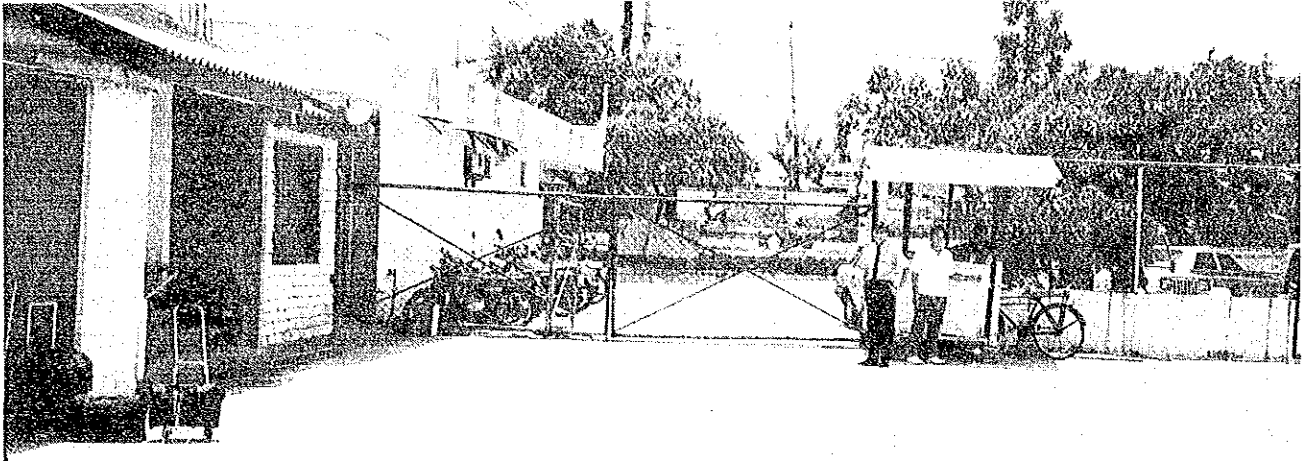


マニラ空港—航空会社による出発ラウンジに於けるハイジャック二次検査風景



フィリピン・セブ島の空港・前方ステップ手前・翼の下に国家警察(武装)



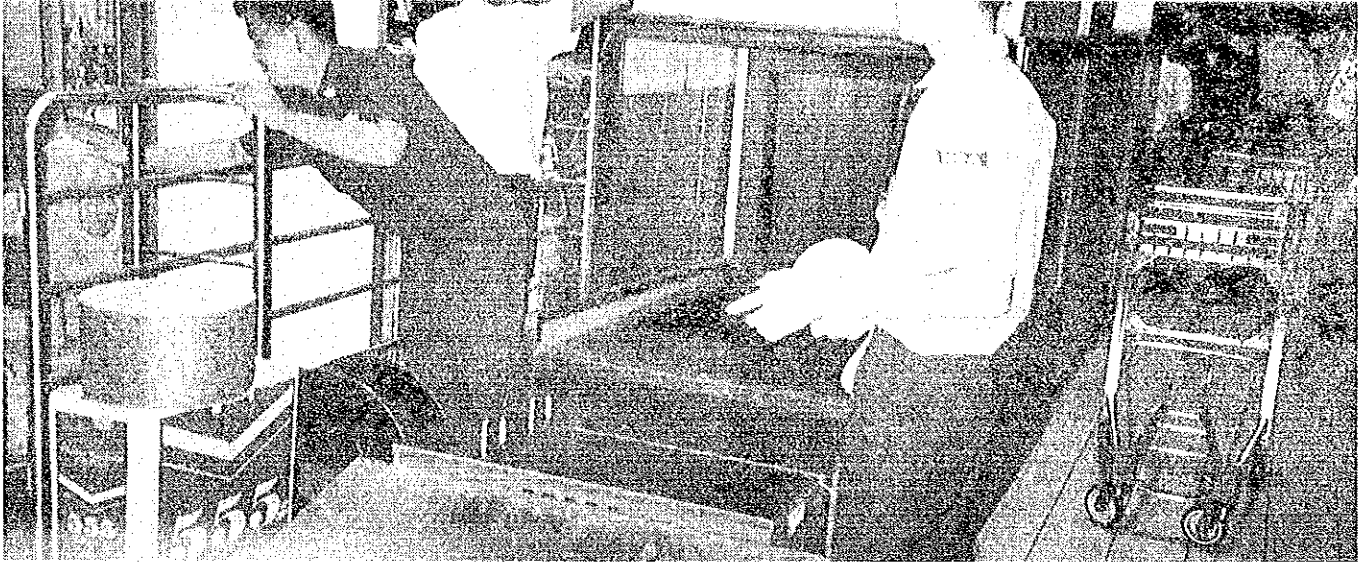


フィリピン・セブ島の空港・ランプへの車の入口  
ボックスの中に国家警察、左の男はフィリピン航空の警備員、白シャツは空港の警察



バンコク空港・受託手荷物検査場風景・荷物の入口側



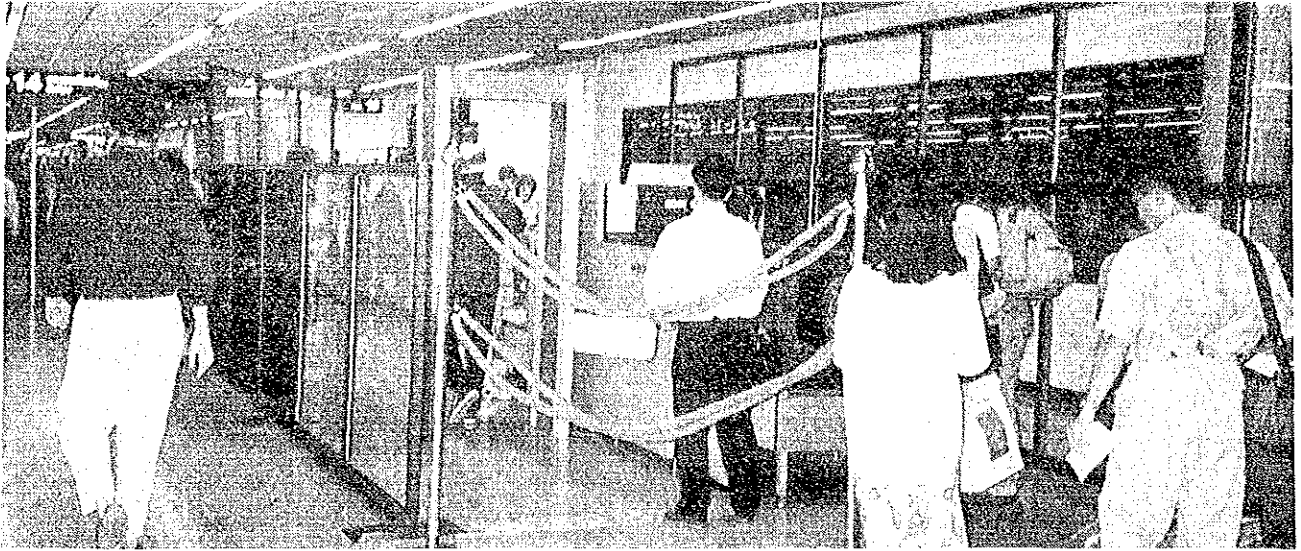


バンコク空港・受託手荷物検査場風景・荷物の出口側  
紐を使って受託手荷物をシールする機器も備わっている。

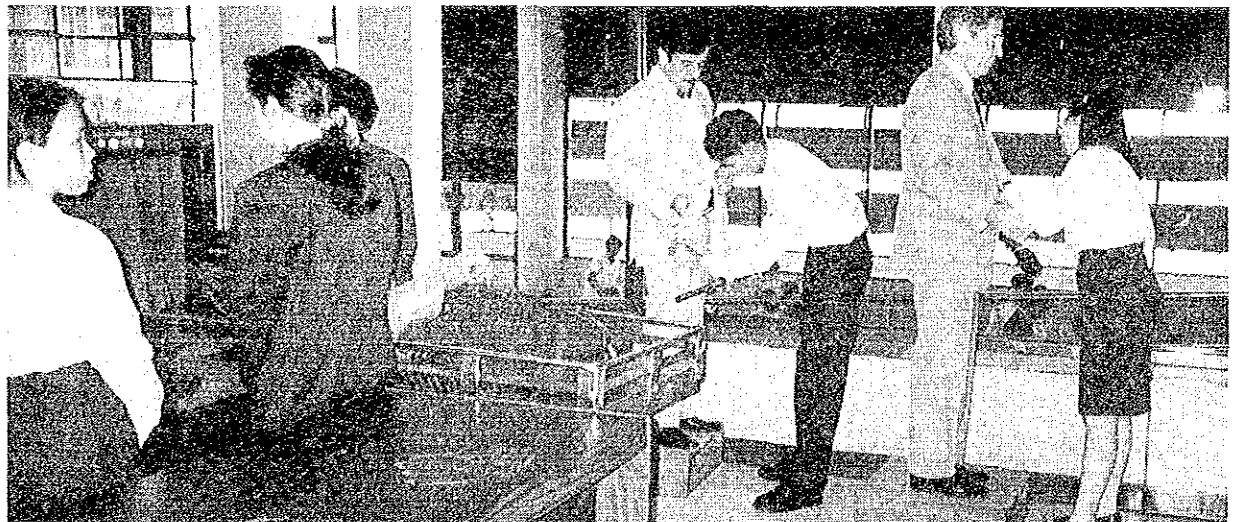


バンコク空港・カウンター前のスタンション・警備員





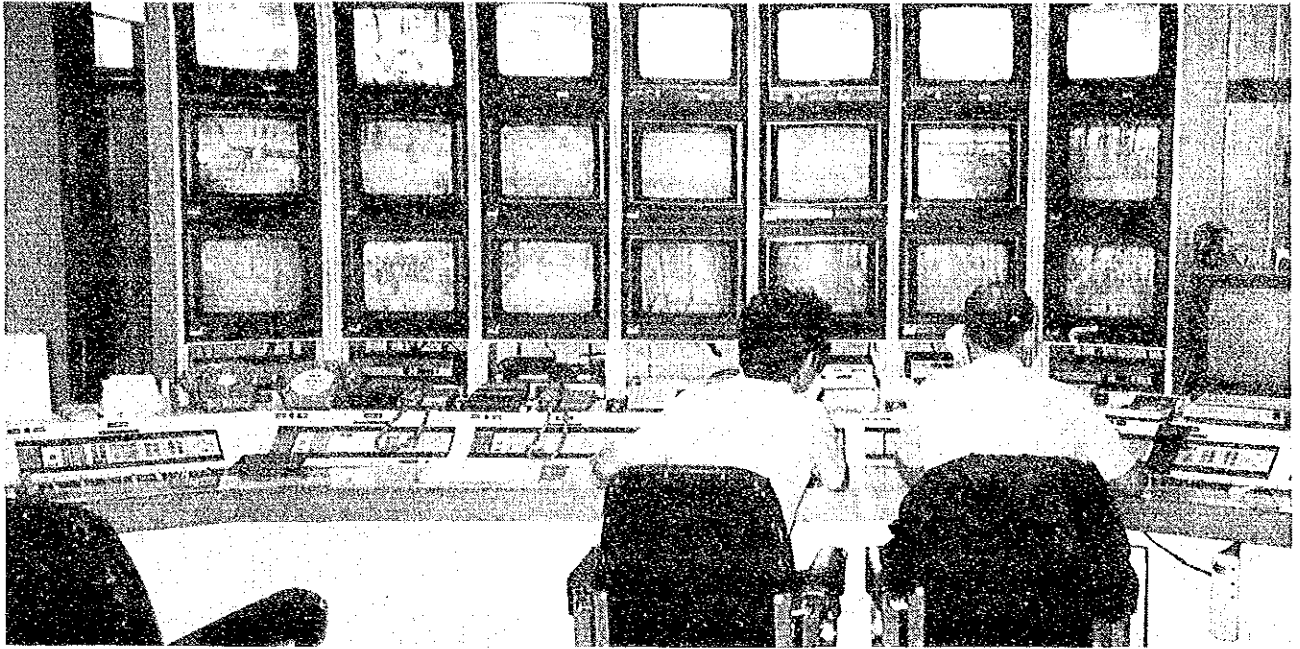
バンコク空港・デパーチャーロビーより搭乗口に向かう途中にあるハイジャック検査場



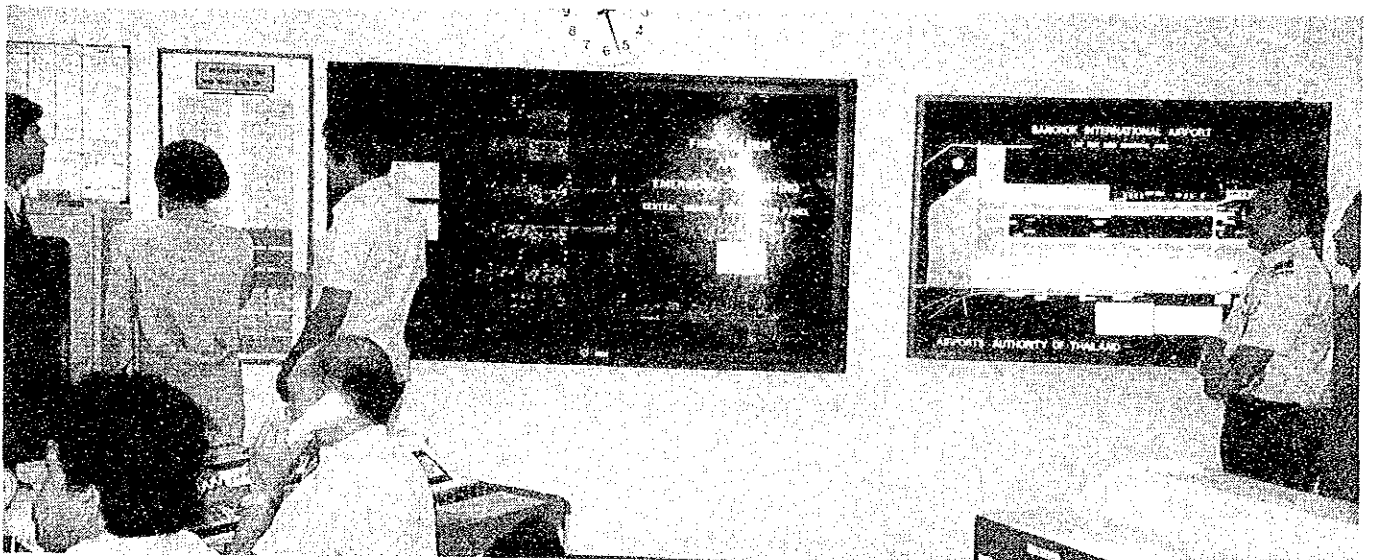
バンコク空港・ハイジャック検査風景・接触検査を受ける対象者は台の上に乗って行う  
(携帯金属探知器も併用している)





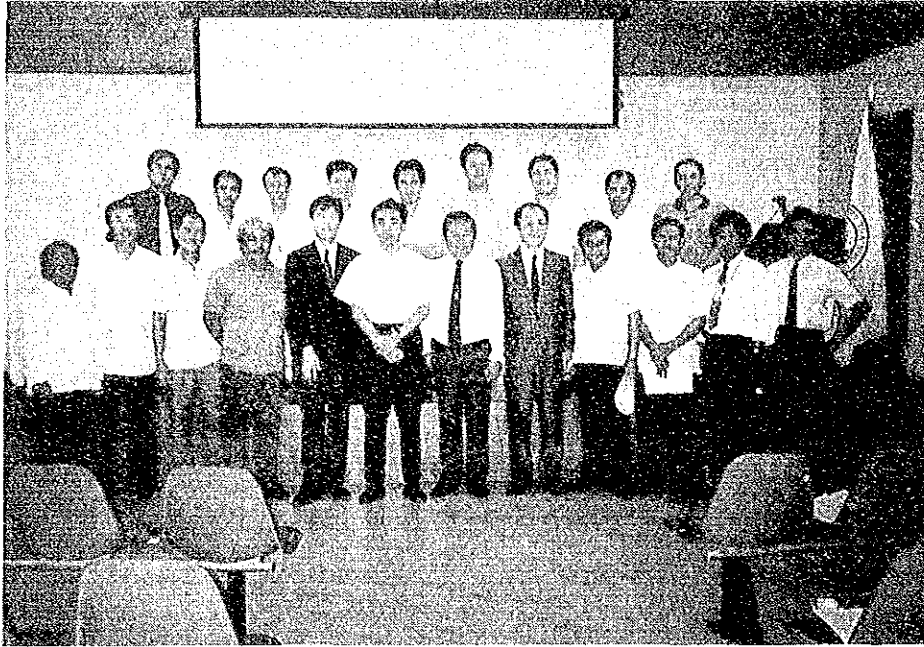


バンコク空港・空港警備センター、監視カメラ70台(モニター画面は21台)  
3人体制で空港全体を24時間警備員が監視している。

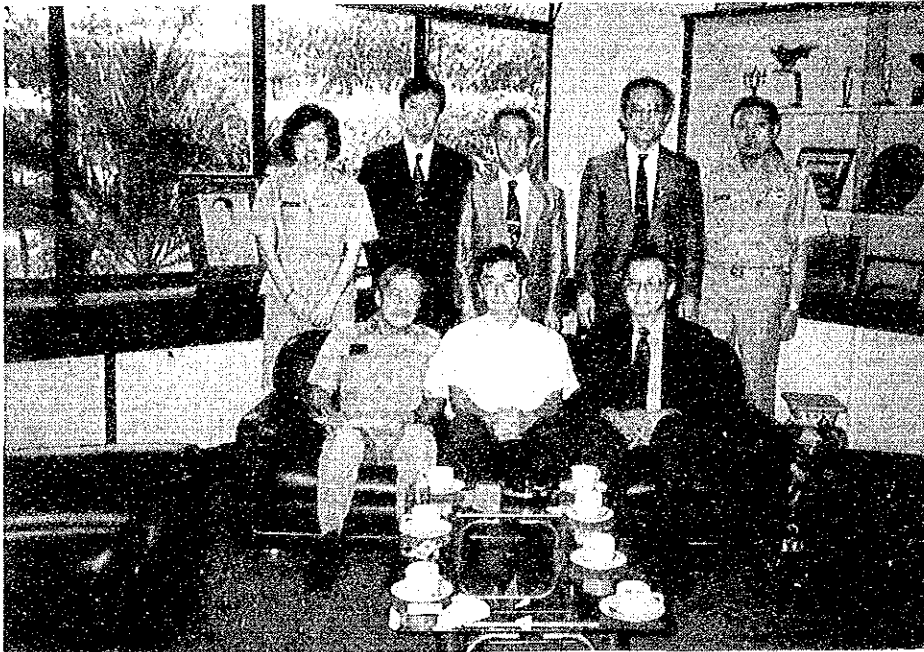


バンコク空港・空港警備センター





セミナー後(フィリピン)



航空局局長他(タイ)



# 目 次

序文

写真

I. 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 団員構成	2
3. 調査日程・主要面会者	3
II. フォローアップチーム調査内容	10
1. 調査方法及び調査 T/R	10
2. 調査国における航空保安体制の現状(各国別)	13
2-1 フィリピン	13
A. 空港の管理	13
B. 空港の警務	13
C. ハイジャック等の防止体制及び防止対策	13
D. ハイジャック等の防止検査体制	14
2-2 タイ	15
A. 空港の管理	15
B. 空港の警務	16
C. ハイジャック等の防止体制及び防止対策	16
D. ハイジャック等の防止検査体制	17
3. 総合所見	18
III. 技術セミナーの概要	19
1. 技術セミナー(指導)実施内容	19
2. 実施状況(日時、場所、参加者)	19
3. 参加者との質疑応答内容	19
4. 実施成果等	20

IV. 当該研修コース(カリキュラム等)改善への具体的提言 .....	21
V. 添付資料.....	22
1. 平成3年度当該コースの概要.....	22
(1) コース名等.....	22
(2) コース背景・目的 .....	22
(3) 到達目標.....	23
(4) 研修項目及び研修方法.....	24
(5) 研修実施体制及び運営.....	25
(6) 年度別国別受入実績表.....	26
(7) コース終了時のエバリュエーション集計結果 .....	27
2. 本調査団対象帰国研修員動向 .....	36
3. QUESTIONNAIRE集計結果.....	38
4. 技術セミナー配布用レジュメ .....	53
5. 当該国訪問機関に提出した英文所見 .....	83

## I. 派遣チームの概要

### 1. 派遣目的

航空保安セミナーは、昭和61年度の発足以来毎年実施され（昭和61年度から63年度までは空港管理保安セミナーとして実施）、平成3年度で6回目を迎え、23ヶ国から55名の研修員が参加している。

今回のフォローアップチームは、航空保安セミナー帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、本セミナーに参加した各国のうち、フィリピン国およびタイ国を対象とし、主に帰国研修員を対象として現地にて技術セミナーを開催するとともに、帰国研修員の所属機関及び関係機関・施設を訪問し、わが国で実施した研修の成果を測定し、また、関係者との面接及び関連施設の見学を通して、当該研修分野の現状を調査し当該研修分野に係る技術的問題点及び要望を把握することにより、今後の研修員受入事業並びにフォローアップ事業の向上・改善に資することを目的として派遣された。

具体的な業務内容は以下のとおりである。

- ① 帰国研修員にあらかじめ質問書を送付し、その回収・分析をもとに研修の成果及び技術的問題点についての意見を聴取する。
- ② 帰国研修員の所属機関及び関係技術協力窓口機関を訪問し、相手国の当該分野における一般的実情・技術水準及び今後のわが国の研修に対するニーズを把握する。
- ③ 現地にて技術セミナーを開催し、当該分野に係る我国の技術情報を提供する。
- ④ 上記の作業をもとに、現地にて当該分野に係る英文所見 (Summary Report) を作成し、相手国関係技術協力窓口機関及び帰国研修員所属機関へ提出する。
- ⑤ 上記作業を通して、帰国後当該研修コースに対する質的改善のための提言を行う。

## 2. 団員構成

- ・ 団長、総括  
Team Leader  
運輸省航空局監理部総務課ハイジャック防止対策室  
室長 鵜沢 哲也  
Tetsuya Uzawa  
Director, Office of Unlawful Interference Prevention,  
Civil Aviation Bureau,  
Ministry of Transport
- ・ 技術指導  
Technical  
Instructor  
日本航空株式会社航空保安部  
課長 石井 喜一  
Yoshikazu Ishii  
Staff Director,  
Security Administration,  
Japan Airlines
- ・ 企画・業務調整  
Planner &  
Cordinator  
国際協力事業団東京国際研修センター  
研修第2課 小林 雪治  
Yukiharu Kobayashi  
Training Officer,  
Second Training Division,  
Tokyo International Centre,  
Japan International Cooperation Agency



### 3. 調査日程・主要面会者

#### 1) 調査日程

8月9日(日)		東京→マニラ(JL741 09:45→13:00) 泊：インターコンチネンタルホテル
8月10日(月)	AM	フィリピンJICA事務所表敬、日程打合せ JICA Philippines Office
	PM	国家経済開発庁表敬・意見交換 National Economic Development Authority (NEDA) 運輸・通信省表敬 Department of Transportation and Communication (DOTC) 泊：インターコンチネンタルホテル(マニラ)
8月11日(火)	AM	運輸・通信省航空局表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Air Transportation Office (ATO), DOTC マニラ国際空港公団表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Manila International Airport Authority
	PM	ニノイアキノ国際空港保安施設見学 泊：インターコンチネンタルホテル(マニラ)
8月12日(水)	AM	運輸・通信省航空局航空訓練センター表敬・意見交換 Civil Aviation Training Center (CATC) 調査団主催セミナー開催(於：CATC) (セミナータイトル：Enhancement of Civil Aviation Security Measures)
	PM	調査団主催帰国研修員及び関係者懇親会開催(於：CATC) Friendship Party Hosted by the Team サマリーレポート作成、フィリピンJICA事務所報告 Report to JICA Philippines Office 泊：インターコンチネンタルホテル(マニラ)
8月13日(木)		マニラ→セブ(PR-835 16:30→17:35) 泊：コーラルリーフホテル(セブ)
8月14日(金)	AM	マクタン・セブ国際空港公団表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Mactan-Cebu International Airport Authority
	PM	マクタン・セブ国際空港保安施設見学 泊：コーラルリーフホテル(セブ)

8月15日(土)		資料整理、サマリーレポート作成、団内打合せ Collection of data, meeting in the Team and report making 泊：コーラルリーフホテル(セブ)
8月16日(日)		セブ→マニラ (PR-832 11:00→12:20) マニラ→バンコク (TG-621 14:55→17:05) 泊：インペリアルホテル(バンコク)
8月17日(月)	AM	タイJICA事務所表敬、日程打合せ JICA Thailand Office 在「タイ」日本大使館表敬 Embassy of Japan DTEC表敬・意見交換 Department of Technical and Economic Cooperation
	PM	運輸・通信省航空局表敬・意見交換、 Department of Aviation 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 泊：インペリアルホテル(バンコク)
8月18日(火)	AM	タイ空港公団表敬・意見交換、帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Airports Authority of Thailand
	PM	ドンムアン国際空港保安施設見学 泊：インペリアルホテル(バンコク)
8月19日(水)	AM	調査団主催セミナー開催(於：インペリアルホテル、バンコク) (セミナータイトル：Enhancement of Civil Aviation Security Measures)
	PM	調査団主催帰国研修員及び関係者懇親会開催 Friendship Party Hosted by the Team サマリーレポート作成、タイJICA事務所・日本大使館報告 Report to JICA Office and the Embassy of Japan  バンコク → (JL-718 22:10) →
8月20日(木)		→東京 →06:05)

2) 主要面会者

イ. フィリピン国にて

(イ) 日本側

1) JICAフィリピン事務所

飯島 正孝 所長

町田 哲 次長

荊木 絵美子 所員

2) JICA派遣専門家

蓮見 義則 (ATO 所属)

(ロ) フィリピン側

1. 国家経済開発庁 (National Economic Development Authority)

Ms. Carmencita J. Guiyab

Excutive Officer, Special Committee on Scholarships

Ms. Aurora T. Collantes

Japan Desk Officer, Special Committee on Scholarships

2. 運輸・通信省 (Department of Transportation and Communication)

Hon. Jesus B. Garcia, JR.

Secretary

Mr. Valde Canes

Under Secretary

Atty. Graciano L. Sitchon

Chif Legal Officer

3. 運輸・通信省航空局 (Air Transportation Office)

Mr. Gerardo C. Protacio

Assistant Secretary

4. マニラ国際空港公団 (Manila International Airport Authority)

Mr. Guillermo G. Cunanan

General Manager

5. 航空局航空訓練センター (Civil Aviation Training Center)  
Mr. Reynaldo D. Fernando  
Superintendent
6. マクタン・セブ国際空港公団 (Mactan-Cebu International Airport Authority)  
Capt. Antonio Oppus  
General Manager
7. 帰国研修員 (以下氏名、参加年次、現職)  
MR. PEPITO M. DONAIRE (1988)  
AIR TRANSPORTATION OFFICE  
TECHNICAL OPERATIONS DIVISION  
AIRPORT MANAGER  
MR. CELESTINO S. CONEL (1989)  
MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY  
INTERNATIONAL TERMINAL OPERATIONS DIVISION  
TERMINAL SUPERVISOR C  
MR. EUSEBIO REYNOR CHITO C. ESTEBAN (1989)  
MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY  
GROUND OPERATIONS DIVISION  
TERMINAL SUPERVISOR C  
MR. ROBERTO B. GALVEZ (1990)  
MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY  
AIRPORT POLICE DEPARTMENT  
INTERNATIONAL PASSENGER TERMINAL DIVISION  
SPECIAL POLICE CORPORAL  
MR. JOSEPH V. TOGONON (1992)  
MACTAN-CEBU INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY  
AIRPORT POLICE DIVISION  
DIVISION MANAGER

イ. タイ国にて

(イ) 日本側

- 1) 在「タ」日本大使館  
米田 浩 二等書記官
- 2) JICAタイ事務所  
阿部 信司 所長  
西脇 英隆 所員
- 3) JICA派遣専門家  
長岡 芳郎 (航空局)

(ロ) タイ側

1. DTEC (Department of Technical and Economic Cooperation)  
External Cooperation Division III  
Ms. Tipsuda Nopmongcol  
Chief of Japan Sub-Div  
Ms. Mantana Thammachoti  
Program Officer, Japan Sub-Div  
Policy and Planning Division  
Ms. Suthanone Fungtammasan  
Chief of Training Analysis Sub-Div  
Ms. Jitkasem Tantasiri  
Program Officer Training Analysis Sub-Div  
Ms. Srichit Tantisuwitkul  
Program Officer, Training Analysis Sub-Div
2. 運輸・通信省航空局 (Department of Aviation)  
Mr. Rungroj Sriprasertsook  
Director General  
Mr. Piyasak Chukes  
Deputy Director General  
Ms. Boon ruay Chobchai  
Director of Airports Service Division

3. タイ空港公団 (Airports Authority of Thailand)

Mr. Anake Udit

Deputy Managing Director (Administration)

Mr. Nirandra Theeranartsin

Director of Training & Development Division

Mr. Suthara Huangsuwan

Specialist, Phuket International Airport

Mr. Suthad Chimjarod

Administrative Personnel 5, Control & Inspection Div.,  
Security Dept.

4. 帰国研修員 (以下氏名、参加年次、現職)

MR. M. L. YOM NGONROTH (1987)

AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND  
BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT  
DEPUTY DIRECTOR OF SECURITY DEPT.

MS. SAMERJAI CHUASUCHARIT (1988)

AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND  
BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT  
SECURITY DEPT., CONTROL & INSPECTION DIV.,  
AIRPORT ADMINISTRATIVE PERSONNEL 6

MR. WITHOON PHUMPHURK (1989)

DEPARTMENT OF AVIATION  
AIRPORTS SERVICE DIVISION  
TRANSPORT TECHNICIAN OFFICER

MS. MONRUDEE GETTUPHAN (1990)

AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND  
SECURITY DEPARTMENT  
ADMINISTRATIVE SUB-DIVISION  
ADMINISTRATIVE PERSONNEL 6

MR. CHOMNONG SARNAKSORN (1991)

DEPARTMENT OF AVIATION

AIRPORT SERVICES DIVISION

CHIEF, CIVIL AVIATION SECURITY BRANCH

MR. SUCHART KANNIM (1992)

AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND

BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT

SECURITY DEPT., CONTROL & INSPECTION DIV.,

ADMINISTRATIVE PERSONNEL 5

## II. フォローアップチーム調査内容

### 1. 調査方法及び調査 T/R

#### (1) 調査方法

フォローアップチーム出発前に、以下の調査 T/R にしたがって、JICAフィリピン事務所及びタイ事務所を通じて、下記技術協力関係窓口機関、帰国研修員上司及び帰国研修員へ Questionnaire(質問票-集計結果添付資料：V-3)を送付し、面接前に現地で回収し、この回答を加味しながら、以下の調査 T/R 内容にそって面談・現地見学・質問票による調査を行なった。

なお、各国における質問票送付先は以下の通り。

#### ・ フィリピン国

- 1) 帰国研修員(添付資料：V-2)： 計 5 名
- 2) 帰国研修員所属機関： Air Transportation Office  
Manila International Airport Authority  
Air Police Department  
Mactan-Cebu international Airport Authority  
計 4 か所
- 3) 関係技術協力窓口機関： NEDA 技術協力窓口機関  
運輸・通信省技術協力窓口機関 計 2 か所

#### ・ タイ

- 1) 帰国研修員(添付資料：V-2)： 計 8 名
- 2) 帰国研修員所属機関： Airport Authority of Thailand  
Department of Aviation 計 2 か所
- 3) 関係技術協力窓口機関： DTEC 技術協力窓口機関  
運輸省技術協力窓口機関 計 2 か所



(2) 調査 T/R

帰国研修員フォローアップ調査 T/R (航空保安セミナー)

調査内容	調査項目 (現地での)	既知事項による事前調査	調査対象	調査方法
1. 当該分野の現状と問題点及びニーズ把握	<p>航空保安に関わる諸機関 (関連省庁、教育機関、航空会社等) とその役割・課題 (当該国セクターの前提状況・需要等を含めて)</p> <p>当該分野のシステム成熟水準・技術水準 (ICAO 関連法規或は日本との比較における) とその問題点</p> <p>当該国当該分野における将来計画 (最も関心・力を入れていること) とその問題点</p> <p>上記計画枠組みの中での人材育成計画とその問題点 (省庁の行政担当者あるいは教育機関の担当者等をどのように開発・配座するか等)</p> <p>総括 (提言) としての到達目標設定の合理性 (当該コース到達目標と当該国の現状・ニーズとの関係・妥当性)</p>	<p>C/R 分析</p> <p>C/R 分析</p> <p>C/R 分析</p> <p>C/R 分析</p>	<p>当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p> <p>当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p> <p>当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p> <p>当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p>	<p>面接 現場観察 意見交換 (於セミナー)</p>
2. 日本での研修の成果等	<p>当該コースへの要望 (当該分野における既存コースの研修項目の他に必要な知識・情報)</p> <p>当該コースへの評価・通用度測定、どのように報告・伝達するか</p> <p>日本で得た知識・情報、どれが有益で、それをどのように活用・応用するか</p> <p>日本で得た知識・情報、それをどのように活用・応用する際に、何が障害になり、それをどのように克服したか/どうして克服できなかったか</p> <p>既存コースを改善するための提言</p> <p>帰国研修員・研修コースへの評価</p> <p>帰国研修員をどのように評価しているか</p> <p>帰国研修員が持ち帰った知識・情報を所属先機関としてどのように活用しているか</p>	<p>評価会要旨</p> <p>評価会要旨</p> <p>評価会要旨</p> <p>---</p> <p>---</p> <p>---</p> <p>---</p>	<p>技協窓 当該分野関係機関 帰国研修員</p> <p>技協窓 当該分野関係機関 帰国研修員</p> <p>帰国研修員</p> <p>帰国研修員所属先</p>	<p>質問表 意見交換 (於セミナー) 面接</p>
3. 当該国の当該分野における関係機関の概要及び帰国研修員の動向調査	<p>関係機関の概要</p> <p>全般的な選考プロセス/選抜基準・方法/所要期間</p> <p>G. I. 配布先 (どのように G. I. を得たか)</p> <p>研修時の職務/職位と現在のそれ (定着度)</p> <p>他国で行われている当該分野の研修の実情と日本それとの比較 (カリキュラム)</p>	<p>---</p> <p>---</p> <p>---</p> <p>---</p> <p>---</p>	<p>技協窓 当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p> <p>帰国研修員</p> <p>技協窓 当該分野関係機関 帰国研修員所属先</p>	<p>質問表</p>

## 別紙

1. 航空行政の仕組みと現状
2. 空港の管理
3. 空港の警務
4. ハイジャック等の防止体制および防止対策
  - (1) 当該国での不法妨害行為の防止対策
  - (2) 国際的な防止対策に対する当該国での対処体制等(国際法規との関係において)
  - (3) 不法妨害行為の事例
5. ハイジャック等の防止検査体制
  - ・ 航空会社のハイジャック等防止対策
  - ・ 保安検査マニュアル
  - ・ 保安検査員に対する教育訓練と監査
  - ・ 保安検査機器の設置・整備状況

## 2. 調査国における航空保安体制等の現状

### 2-1. フィリピン

#### A. 空港の管理

フィリピンの場合、通常、空港の監理は航空局により行なわれているが、マニラ国際空港(MIA)のようにマニラ国際空港公団(MIAA)が設立され、管理を行なっているところもある。

#### B. 空港の警務

フィリピン空軍の実行部隊である PASECOM(PHILIPPINE AIR FORCE SECURITY COMMAND)が空港警備に当たっている。

空港における一般犯罪については各空港に直属している空港局の空港警察(AIRPORT POLICE)が従事している。

また、航空局と民間の警備会社との契約による警備員により、ランドサイドの警備が行なわれている。

MIA の場合、警備全体の責任者が MIAA 総裁であり、他の空港とは多少異なる。

具体的には、フィリピン国家警察の指揮下にある航空保安コマンド(PASECOM)、MIAAの空港警察及び航空会社の保安要員の協力のもと実施されている。

また、ターミナル駅ビル入口等の警備について、フィリピン海兵隊が行なっている。

空港の制限区域への出入管理については、MIAA発行のパスにより管理されている。

#### C. ハイジャック等の防止体制及び防止対策

##### ① ハイジャック防止国家行動委員会

これは、フィリピンにおけるハイジャック防止のための大統領命令により設立された。

これは NACAH(National Committee on Anti-Hijacking)と呼ばれ、不法妨害行為が発生した場合、航空機及び旅客の人命を防護する責任を有している。

② 混在防止対策

MIAにおける混在防止対策の責任は公団にある。

MIAAはガラス製仕切りの設置、スタンション及びロープの提供をしている。

③ 検査員等の教育・訓練

検査員、乗務員等への教育・訓練計画を有している。

D. ハイジャック等の防止検査体制

① 保安検査

通常、保安検査は検査機器の設置運用を含め全て PASECOM により実施されている。

MIA の場合、MIAA の空港警察の協力のもと、PASECOM 及び航空会社保安要員により実施されている。

旅客はターミナル入口で航空券を提示することにより入場可能である。旅客以外のものは料金を支払うことによりビジター専用のロビーにのみ入場できる。

旅客はチェックイン前に固定式金属探知機により検査され、手荷物については全て X 線検査装置により検査される。チェックイン後、サテライトに至る前に再度、金属探知機及び X 線検査装置により、旅客及び機内持込手荷物の検査を行う。

航空会社によっては、ゲートラウンジ入口で機内持込手荷物の全数開披検査及び旅客の全員接触検査を実施しているところもある。

② 受託手荷物検査

ターミナル入口において X 線検査装置により検査している。

③ 貨物

検査は実施していない。

しかし、不審物については開披することになっている。

\* 不法妨害行為発生状況

① 1973. 10. 11 フィリピン航空(ダバオ～バコロド)

国外脱出を目的に犯人一人によるハイジャック、犯人は交渉後、投降

- ② 1975. 2. 25 フィリピン航空(パカディアン～ザンボ)  
犯人 2 人によりハイジャック  
犯人は投降
- ③ 1975. 10. 7 フィリピン航空(ダボイ～マニラ)  
軍人 1 人によりハイジャックされ、リビア行きを要求  
犯人は交渉後、投降
- ④ 1976. 1. 5 日本航空(バンコク～マニラ～大阪)  
マニラ寄港中 2 人の犯人によりハイジャック  
犯人は逮捕
- ⑤ 1976. 3. 7 フィリピン航空(カガヤン・デ・クロ～ダバオ～マニラ)  
軍人 3 人によりハイジャックされ、仲間の釈放等を要求  
犯人は、リビアへ脱出
- ⑥ 1976. 4. 9-12 フィリピン航空(マニラ～バンコク)  
3 人の犯人によりハイジャックされ、犯人はリビアへ
- ⑦ 1976. 5. 21 フィリピン航空(ダバオ～ザンボ)  
軍人等 6 人によりハイジャックされ、リビア行き等を要求  
交渉後失敗、銃撃戦となり、旅客 10 人、犯人 3 人死亡
- ⑧ 1982. 5. 21 フィリピン航空(バコロド～マニラ)  
農民 1 人によりハイジャックされ、身代金等を要求  
交渉中に犯人鎮圧
- ⑨ 1986. 10. 26 タイ国際航空(～東京)  
日本人による密輸手榴弾爆発事件発生
- ⑩ 1990. 5. 11 フィリピン航空(マニラ)  
プッシュ・バック中、爆破事件発生

## 2-2 タイ

### A. 空港の管理

タイには 5 国際空港及び 23 国内空港が存在する。

このうち 4 国際空港は空港公団(AAT: AIRPORT AUTHORITY OF THAILAND)、1 国際空港は海軍の管理下にあり、その他の空港はタイ空港局(DOA: DEPARTMENT OF AVIATION)の管理下にある。

## B. 空港の警務

バンコク国際空港の場合

- ・ ランプパスの発行管理  
AATにより毎年1回更新されている。
- ・ 空港外周警備  
AATにより24時間パトロール(一部空軍と共同)
- ・ ターミナル警備  
AATによる要所への警備員配置及びチェックインカウンター付近全体警備を実施。制限地域出入りのためのランプパスチェックは厳重。
- ・ カーゴ地区・航空機周辺警備  
JAAT(AAT関連セキュリティ会社)により警備員立哨、巡回警備実施。

## C. ハイジャック等の防止体制及び防止対策

### ① 国家航空保安委員会

(NATIONAL CIVIL AVIATION SECURITY COMMITTEE)

運輸・通信大臣を委員長として、政府、航空会社関係者が委員を務める委員会。

### ② 国家航空保安計画

不法妨害行為に対する民間航空の運航を防護することを目的とした国家航空保安計画を作成している。

### ③ 空港保安委員会及び空港保安計画

各空港に空港保安委員会を設置し、空港保安計画を作成している。

### ④ 航空保安ブランチ

航空保安計画の策定、管理、空港管理者及び航空会社に対する情報提供を行う航空保安ブランチを全空港に配置している。

### ⑤ 航空保安オフィサー

旅客及び機内持込手荷物の保安検査等、保安関係事項について指揮をとる空港保安オフィサーを全空港に配置している。

### ⑥ 混在防止対策

バンコク国際空港の場合、各層分離方式により、出発客と到着客の混在を防止している。

#### D. ハイジャック等の防止検査体制

##### ① 保安検査

保安検査については、空港管理者の責任により実施されており、空港管理者が費用負担をしている。

バンコク国際空港の場合、各ピア入口に検査機器が設置されており、AATの検査員により、機内持込手荷物については X 線検査装置、旅客については固定式金属探知機及び携帯用金属探知機による検査されている。

検査機器で反応が認められた場合、手荷物は開披、旅客は携帯式金属探知器による再チェックが行われる。

乗継客についても乗継手続き終了後、出発旅客と同様に各ピア入口で再検査される。

##### ② 受託手荷物検査

受託手荷物検査については、航空会社の責任による実施されているため、対応は航空会社によって異なる。

一部 X 線検査装置を使用している航空会社もあるが、大多数は金属探知器又は開披検査を実施している。

##### ③ 貨物検査

原則として検査はない。

しかしながら、航空会社によっては、必要に応じて金属探知器による検査、開披検査、24 時間留置等の措置を講じている。

#### \* 不法妨害行為発生状況

##### ① 1976. 4. 9-12 フィリピン航空(マニラ～バンコク)

3 人の犯人によりハイジャック、犯人はリビアへ

##### ② 1981. 3. 28-31 ガルーダ・インドネシア航空(パレンバン～バンコク)

ハイジャック犯人 3 人死亡、2 人逮捕

##### ③ 1982. 6. 30-7. 1 アリタリア航空(デリー～バンコク)

ハイジャック犯人 1 人逮捕

##### ④ 1982. 9. 12 バンコク国際空港

出発ロビーにて爆発物発見

- ⑤ 1983. 1. 18 タイ航空国内線  
ハイジャック犯人 2 人逮捕
- ⑥ 1983. 9. 13 アエロフロート事務所  
手榴弾による襲撃事件の発生
- ⑦ 1986. 10. 26 タイ国際航空(～東京)  
日本人による密輸手榴弾爆発事件発生
- ⑧ 1989. 10. 6 ビルマ航空国内線  
ハイジャック犯人 2 人(ビルマ学生)降伏
- ⑨ 1990. 11. 10-11 タイ国際航空(バンコク～ニューデリー)  
ハイジャック犯人 2 人(ビルマ学生)インドカルカッタにおいて降伏

### 3. 総合所見

- (1) 本件調査全般については、両国当局の積極的協力もあり効率的、効果的に行うことができ所定の調査目的を十分に達成できたと考えられる。
- (2) 本コース(GI)で設定されている研修目的(Aims)研修到達目標(Objectives)については、自国のニーズに適合しており、特段の改定の必要はないとの回答を両国関係機関、帰国研修員から得た。但し、フィリピン側よりセミナーで得た知識・経験は非常に informative であるも、現職に応用するのは困難であるとのコメントがあった。これは、フィリピンの航空保安には多くの関係機関(Airport Authority PNP-PASECOM, Marine)が関わっており、政策決定、訓練等に当たった役割がそれぞれ異なるため、研修成果を国内的にフィードバックする際、関係機関間の調整が困難ではないかとの印象を受けた。
- (3) ニノイアキノ国際空港、マクタン・セブ国際空港、バンコク・ドンムアン国際空港を見学した限りでは特に問題は散見されなかった。しかしながら、タイへの派遣専門家からの意見では地方空港の保安体制について問題があるとされ、この点でこれからは地方空港への研修も重要であるとの印象を持った。
- (4) 研修項目の応用度については、帰国研修員から高い評価を得た。具体的な応用例も散見されている。



### III. 技術セミナーの概要

#### 1. 技術セミナー(指導)実施内容

セミナーのテーマとして(1)我が国の航空保安対策(2)ICAO Annex 17の改正状況の2点について別添資料に基づき説明を行った。

(1)については、まず航空保安対策を策定、実施するに当たっての運輸省、内閣安全保障室、警察庁等の国、航空会社、新東京国際空港公団、その他の関係機関の役割分担等我が国の空港保安対策の基本的枠組みについて説明を行い、次に我が国で実施されてきた航空保安対策の具体的内容と歴史的経緯と踏まえて紹介し、更に最近導入された対策の事例として①「保安検査に関する指針」及び「受託手荷物検査に関する指針」②「航空機爆破防止対策基準」について説明した。

(2)については、1992年6月のICAC航空保安パネルでのAnnex 17第8次改正の概要を説明し、そのなかでも特に受託手荷物検査に係わる規定等同改正作業のなかで特に議論となった点及び今後引き続き検討されることとされた点について我が方の考え方と適宜紹介しつつ説明を行った。

#### 2. 実施状況

##### A. フィリピン国にて

1. 日時：平成4年8月12日(水)
2. 場所：航空局航空訓練センターセミナー会場(マニラ)  
(Civil Aviation Training Center)

##### B. タイ国にて

1. 日時：平成4年8月19日(水)
2. 場所：インペリアルホテル・会議室(バンコク)

#### 3. 参加者との質疑応答

##### (1) フィリピン

保安検査等に当たってのVIP、外交官の取扱いについてVIPの具体的範囲、ウィーン条約に規定されている外交官特権と検査との関係について質問があった。これに対し、VIPについては我が国法令上具体的な定義は存在しないが例えば国公賓、国公賓に准ずる外国賓客、天皇、皇族、三権の長または国務大臣等閣議メンバー若しくはその他航空会社保安担当責任者が必要と認める者をいい、こ

これらの者は「保安検査に関する指針」に定める手続きに従って検査と省略できる旨説明。外交官特権についてはウィーン条約上外交特権として保安検査等を受ける義務がない旨規定されているがシカゴ条約上保安検査等との関係ではウィーン条約の規定は適用されることとされている。両者はいうまでもなく一般法、特別法の関係に立ち、法的効力の点でシカゴ条約が優位に立つ。従って外交官であっても一般の旅客と同様に保安検査等を受けるが上記指針に定める規定に該当する場合に限ってこれを省略することができる旨説明。

#### (2) タイ

1) 爆破予告等の怪情報があると航空機の遅延等経済的損失が大きく対応に苦慮しているが日本の場合どうしているか。これに対し予告対象がある程度特定されれば受託手荷物を旅客により一つ一つ indentify してもらい不審な手荷物がないか確認しその上で出発している。従って日本の場合もタイと同様大幅な遅延が生ずることが多くあり、この問題を解決するため予告の審議を効果的に判断する手法を研究している旨答えた。

2) 貨物、郵便小包に対する保安措置のあり方について質問があった。これに対し「航空機爆破防止対策基準」を引用しつつ通常のリスク状態であれば一見客、常顧客のうち不審な者等の貨物に対し、一般確認方法では24時間留置によって安全を確認し、リスクが上がった場合にはこれらの措置を強化している。また、郵便小包についても郵政省の協力を得て同様の措置を講じている旨説明。

#### 4. 実施成果等

セミナーの内容が Annex 17、日本のハイジャック防止体制等の説明等制度的・理論的色合いが濃かったため、一部研修員の理解が困難である様みうけられたこともあったが総じて強い関心をもって参加していたように思える。特に日本のハイジャック防止体制についてはタイのそれとは異なることと認識しつつも良い点は積極的にとり入れていこうとする姿勢がみられた。Annex 17, 8次改正についても日頃なじみの薄い分野であるにもかかわらずその重要性について高い理解が得られた様に思われる。

#### IV. 当該研修コース(カリキュラム等)改善への具体的提言

- (1) 平成3年度までの研修員は現場レベルからの中堅保安スタッフが多く、このため研修で得た知識・経験は研修員個人の質の向上に貢献しているものの、当該国の航空保安当局全体のレベルアップに必ずしも結びついていない。従って、政策立案にも影響力がある地位若しくは組織のスタッフもバランス良く推薦することが、本コースをより有益な者にするため必要と考えられる。
- (2) タイについては、過去の研修員は航空局(本省)或は空港公団(バンコク・ドンムアン国際空港)と、バンコクに集中していたが、ドンムアン国際空港と他の地方空港とでは保安体制の格差が認められることもあり、今後は地方の国際空港又は国内の地方空港の航空保安スタッフも候補者として推薦することが、タイ国の航空保安の更なる向上に資するものと考えられる。
- (3) 候補者の先行手続きについては両国ともそれぞれの資格要件に沿って特に英語力、専門分野について面接筆記試験を行っているとのことであり、相当程度厳格に選考がなされているとの印象を得た。しかしながら過去の研修員全体をみると特に英語力の点で問題のあるケースもあったところ所要の英語力の有無を我が方が確認できるような選考方法を導入する必要があると考えられる。

## V. 添付資料

### 1. 平成3年度当該コースの概要

#### (1) コース名等

##### 1) コース名

- ・ 和文：航空保安セミナー
- ・ 英文：Seminar on Aviation Security

##### 2) 研修機関

平成4年1月30日(木)から同年2月26日(水)まで

##### 3) 定員

14名

#### (2) コースの背景・目的

##### 1) 背景

ハイジャック等の民間航空に対する不法妨害の防止については、従来から国際的な努力が続けられてきたところであるが、最近テロリストによる民間航空機のハイジャックとこれに伴う人質監禁及び無辜の乗客の殺害が頻発しており、ICAO等国際会議でも世界の国々は協力して民間航空に対する不法妨害行為の防止措置を強化することを決議している。民間航空に対する不法妨害行為を防止するためには、保安体制の強化が第一義的に重要であるが、開発途上国においては、保安について十分な知識、経験を有している国が少ないのが現状である。このため1985年7月にICAOが決定した民間航空に対する不法妨害行為防止強化対策の中でも研修等の強化について国際協力の推進が強く要請されている。

以上のような実情に対応して、途上国の航空保安対策担当者の知識及び経験の向上に資するため、我が国の技術協力の一環として、昭和61年度より空港管理保安セミナーを開催することとした。更に、民間航空に対する不法妨害行為防止強化対策が急務となっている現状を踏まえ、平成元年度より航空保安対策に重点を置いたセミナーとして実施することとし、名称も航空保安セミナーと改称した。

##### 2) コースの目的

本セミナーでは、開発途上国の保安対策担当者が、自国の空港における航空保安対策に役立てるため、ICAOの関連規定等航空保安対策に関する国際的基

礎知識を取得すると共に、我が国の航空行政全般の理解、特に航空保安対策に関する規定・制度並びに機器、施設について理解するほか、実地に空港等の施設について見聞を広め、それぞれの国に適する形に消化し、航空保安対策のあり方を追及することを目的とする。

### (3) 到達目標

#### 1) セミナー全体の到達目標

- (1) 航空保安対策全般について理解を深める。
- (2) 国際的なハイジャック等防止体制及び防止体制に関する知識を習得する。
- (3) 日本のハイジャック等防止体制及び防止対策に関する知識を習得する。
- (4) ハイジャック等防止検査体制に関する知識を習得する。
- (5) 各国におけるハイジャック等の防止体制及び対策に関する問題点を検討し、それぞれの国における保安対策のあり方をさぐる。

(4) 研修項目及び研修方法

(1) 研修概要

主 要 項 目	課 目 構 成	時間配分(時間)		指 導 内 容 及 び 指 導 方 法
		講義	実習 視察	
(1) 日本の航空行政の仕組と現状	1. 日本の航空行政の仕組と現状	2		航空行政の仕組と現状について一般的説明をする。
(2) 空港の管理	1. 空港の管理	2		空港の管理について一般的説明をする。
(3) 空港の警務	1. 空港の警務体制	2		空港の警務体制について制限区域管理を中心に説明する。
(4) 国際的なハイジャック等の防止体制及び防止対策	1. 国際的な不法妨害行為の防止対策	2		ICAO等の国際機関、先進国首脳会議、国際条約等における不法妨害行為の防止体制、ICAO、先進国首脳会議専門家合会等における最近の動きについて説明する。
(5) 日本のハイジャック等の防止体制及び防止対策	1. 日本のハイジャック等の防止対策 2. 爆発物対策	2 2		政府全体の体制、運輸省の体制、空港保安委員会、防止対策の推移、関係法令関係等について説明する。 爆発物に関する基礎知識について説明する。
(6) ハイジャック等の防止検査体制	1. 航空会社のハイジャック等防止対策(国際) 2. 航空会社のハイジャック等防止対策(国内) 3. 保安検査マニュアル 4. 保安検査員に対する教育訓練と監査 5. 保安検査機器(X-Ray) 6. 保安検査機器(金属探知器) 7. 成田空港のハイジャック等防止対策と施設見学	2 2 2 2 2 2 2		国際線に係る航空会社のハイジャック等の防止対策について説明する。 国内線に係る航空会社のハイジャック等の防止対策について説明する。 空港における保安検査の実施要領について説明する。 保安検査員に対する教育訓練の方法、教育訓練課題等について説明する。 X線検査装置の原理、性能、使用方法等について説明し、製造課程を見学する。 金属探知器の原理、性能使用方法等について説明し、製造課程を見学する。 成田空港におけるハイジャック等の防止対策について説明し、保安体制、保安検査の現状を見学する。
(7) 各国におけるハイジャック等の防止体制及び対策	1. カントリーレポート発表及び討論		8	各国のハイジャック防止体制及び対策についての発表及び討論を通じて各国の保安対策の問題点、あるべき方向を検討する。
(8) 空港における保安体制等の見学	1. 研修旅行		16	空港における保安体制、保安検査の現状を見学する。
合 計		26	8	22

(5) 研修実施対し及び運営

本セミナーは、国際協力事業団が運輸省航空局との協力により実施運営するものとする。また、セミナーのより円滑な運営のために国際協力事業団は社団法人海外運輸コンサルタント協会(平成3年度まで、平成4年度から財団法人空港保安事業センターに委託)に研修員受入業務の一部を委託する。

- ・ 研修実施機関  
国際協力事業団東京国際研修センター研修第2課
- ・ 研修実施協力機関  
運輸省航空局監理部総務課ハイジャック防止対策室
- ・ 研修委託機関  
社団法人海外運輸コンサルタント協会  
(平成4年度から財団法人空港保安事業センター)

(6) 年度別受入実績表

年 度 国 名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	計
	1986	1987	1988	1989	1990	1991	
<アジア地域>							
インドネシア	1			1		2	4
マレーシア	1			1	1	2	5
パキスタン		1		1	1	1	4
フィリピン		1	2	1		1	5
シンガポール		1					1
スリランカ	1	1					2
タイ	2	1	1	1	1	2	8
インド				1	1		2
<中近東地域>							
バハレーン			1				1
エジプト		2	1				3
トルコ			2	1	1		4
チュニジア				1			1
クウェイト				1			1
イエメン				1			1
スーダン					1	1	2
<中南米地域>							
ブラジル	1	1			1	1	4
メキシコ				1			1
ボリビア					1		1
パナマ						1	1
パラグアイ						1	1
<アフリカ地域>							
コモロ			1				1
<オセアニア地域>							
フィジー				1			1
<欧州地域>							
ギリシヤ				1			1
合 計	6	8	8	13	8	12	55



(7) コース終了時のエバリュエーション集計結果

SUPPLEMENT

OF

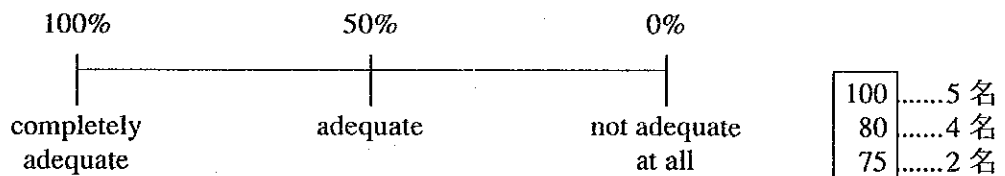
QUESTIONNAIRE FOR FUTURE PROGRAMMES

Participant's Name : \_\_\_\_\_

Nationality : Brazil, Indonesia, Malaysia (2), Pakistan, Panama  
Paraguay, Philippines, Sudan, Thailand, (2)

Directions : Your training programme has been conducted in accordance with the aim(s) and objective(s) as shown in a brochure called General Information (GI). (A photocopy of the relevant page of GI is attached herewith.)  
As we intend to evaluate your training programme in view of such aim(s) and objective(s). you are requested to answer each of the following questions as well as the questions No.11 to 20 in the Questionnaire with those aim(s) and objective(s) in your mind.

1-(1) To what extent has your programme adequately organized in order to satisfy those aim (s) and objective (s) ?  
Explain your evaluation by showing percentage below.

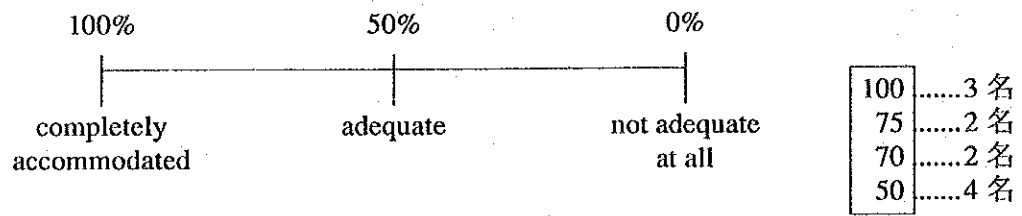


Average 88.18 %

-(2) Explain the reason of the above evaluation in detail.

-(3) Go on to the questions No.11 to 20 in the Questionnaire.

2-(1) To what extent have those aim(s) and objective(s) accommodated requirement in the field of this training course/seminar in your country ?



Average 71.81

- (2) Explain the reason of the above.

3-(1) Do you think the aim (s) and objective (s) should be changed in order to accommodate your country's requirement more adequately ?

Yes   3   / No   8  

- (2) If the answer is "Yes", write your suggestion in detail or alternative aim (s) or objective (s), if any.

10. Did you get information on the objectives, content and schedule of your training/study programme before coming to Japan ?

[1] Yes

10

[2] No

If your answer is yes, was the information sufficient ?

[1] sufficient

10

[2] insufficient

If your answer is insufficient, what kind of information did you need ?

---

---

11. How do you evaluate your training/study programme on each of the following items ?

(1) Coverage of subject

[1] too broad

2

[2] about right

9

[3] too narrow

(2) level

[1] too advanced

2

[2] about right

7

[3] too elementary

2

(3) depth

[1] too deep

1

[2] about right

8

[3] not deep enough

2

(4) logical order of topics

[1] good

6

[2] Fair

5

[3] poor

(5) relationship of each topic: to the objectives of your training/study programme

[1] good

6

[2] fair

5

[3] poor

(6) balance of time allocation among lectures, discussions, exercises, and observations

[1] good

7

[2] fair

4

[3] poor

If your answer to tire last item (6) is fair or poor, how did you find the amount of time allocated to each of the following items ?

	too much	about right	too little
lectures	[1] <input type="text"/>	[2] 4	[3] <input type="text"/>
discussions	[1] <input type="text"/>	[2] 1	[3] 3
exercises	[1] <input type="text"/>	[2] 1	[3] 3
observations	[1] 1	[2] 1	[3] 2

12. What was the most beneficial and useful topic in the programme ?

---



---

13. If any topics were to be added to the programme, what should they be ?

---



---

14. If any topics were to be eliminated from the programme, what should they be ?

---



---

15. How do you evaluate the presentations by the lecturers in your training/study programme ?

[1] very good	[2] good	[3] fair	[4] Poor	[5] very poor
2	8	1	<input type="text"/>	<input type="text"/>

16. How do you evaluate guidance and directions given by lectures on each of the following occasions ?

	very good	good	fair	Poor	very poor
discussions	[1] 2	[2] 5	[3] 3	[4] 1	[5] <input type="text"/>
exercises	[1] 1	[2] 5	[3] 3	[4] 1	[5] <input type="text"/>
observations	[4] 4	[2] 6	[3] 1	[4] <input type="text"/>	[5] <input type="text"/>

17. How do you evaluate the following items ?

	very good	good	fair	Poor	very poor
textbooks, resumes, etc.	[1] 4	[2] 7	[3]	[4]	[5]
training/study equipment	[1] 5	[2] 3	[3] 3	[4]	[5]
lecture/seminar rooms	[1] 6	[2] 3	[3] 2	[4]	[5]

18. How do you find the duration of your training/study programme ?

[1] too long  [2] about right  [3] too short

19. How did you find the intensity level of your training/study programme ?

[1] too leisurely  [2] about right  [3] too hard

20. How do you evaluate the general administration and management of your training/study programme ?

[1] very good  [2] good  [3] fair  [4] poor  [5] very poor

Lastly, would you please answer the following questions as an overall evaluation of your stay in Japan ?

21. Were your expectations of this programme met ?

[1] fully met  [2] mostly met  [3] somewhat met  [4] not met

22. How do you find the applicability of the techniques and knowledge obtained through your training/study programme in your country ?

[1] very good  [2] good  [3] fair  [4] poor  [5] very poor

23. How much was your understanding about Japan deepened ?

[1] very much  [2] to some degree  [3] a little  [4] unchanged

24. What kind of overall impression of Japan did you get from your stay here ?

[1] very favorable    [2] favorable    [3] fair    [4] unfavorable    [5] very unfavorable

(1) If your answer is very favorable.or favorable, please explain in detail.

---

---

(2) If your answer is unfavorable or very unfavorable, please explain in detail.

---

---

25. Any other comments.

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

Thank you very much for your cooperation.

## QUESTIONNAIRE FOR FUTURE PROGRAMMES

No. 1

8-(2): Before your training/study programme started, did you participate in the general orientation programme for introducing Japan's history, society, economy, education, etc.? And what was the most interesting topic for you?

- |   |                      |
|---|----------------------|
| * Diciplined mentality and business industry.         | (INDONESIA)          |
| * Japan's history, economy and traditional culture.   | (MALAYSIA, PARAGUAY) |
| * Involvement of private sector in aviation security. | (PAKISTAN)           |
| * Religion, politics & geography.                     | (THAILAND)           |
| * Society.  | (PHILIPPINES)        |

9. Did you participate in any of the social programmes such as the Japanese language programme, Japanese traditional culture programme, sightseeing, sports activities, cultural courses? If your answer is yes, were they interesting ?

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| * Japanese traditional culture programme. | (PHILIPPINES, INDONESIA, BRAZIL) |
| * Japanese language programme.            | (MALAYSIA)                       |

12. What was the most beneficial and useful topic in the programme ?

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| * Airport security programme.   | (PAKISTAN, BRAZIL, THAILAND) |
| * Security inspection equipment. ---Because the machine can detect a plastic bomb.    | (MALAYSIA)                   |
| * Standard equipment for security control.  | (INDONESIA)                  |
| * The most beneficial topic in my programme was measures for explosion.               | (PANAMA)                     |
| * Equipment of security and personnel are vey well while working.                     | (MALAYSIA)                   |
| * Training for security personnel.  | (PARAGUAY)                   |
| * International measure to prevent unlawful acts against civil aviaition.             | (THAILAND)                   |
| * High-jacking prevention system in Japan and preventive measures against explosives. | (SUDAN)                      |

24. What kind of overall impression of Japan did you get from your stay here ?

(1): If your answer is very favorable or favorable, please explain in detail.

- |  |               |
|--|---------------|
| * By attending this seminar, I have learned more about Japan's history, society, economy and high technology. I also realized a big role of Japan in supporting developing countries.  | (SUDAN)       |
| * Japan's impressive development and hospitable people.  | (PARAGUAY)    |
| * Firstly, we found its different culture, secondly, here we saw a great discipline and very impressive administration.  | (PANAMA)      |
| * It is an advanced and disciplined society.   | (PAKISTAN)    |
| * Japanese people developed a great sense of nationality and fights always against obstacles to provide a great nation in all aspects.   | (BRAZIL)      |
| * All facts and information regarding our seminar were provided especially on actual observation wherein the staff in every airport are very accommodating and willing to give all information and all questions were satisfactorily answered. | (PHILIPPINES) |
| * Japanese people are very hard-working and they're very punctual.   | (MALAYSIA)    |
| * When I came first to Japan and stay in TIC Hatagaya, I had a nice accommodation and support by JICA. For example:<br>① housing, ② transportation (sub-way & railway), ③ communication,<br>④ luxury (T.V.), ⑤ hospitality                     | (THAILAND)    |
| * Japanese people are helpful and sincere.   | (THAILAND)    |

5. Any other comments.

- |  |             |
|--|-------------|
| * ① In future, JICA should increase allowances because living costs in Japan were quite expensive such as costs for food, transportation and everything else. So participants are benefited if they can get increased scholarship. |             |
| ② Duration of the training course would be adequate if it were 40-45 days.   |             |
| ③ Seminar on aviation security, JICA should assume circumstance of exercises on AVSEC.   |             |
| ④ Adjustment and change breakfast at TIC every day.  |             |
| ⑤ Arrangement of party to give enjoyable moments between participants from many countries.   |             |
| ⑥ Seminar on aviation security, JICA should make assumption on exercises of AVSEC.   | (THAILAND)  |
| * This seminar is advised to take participants for practices.  | (MALAYSIA)  |
| * ① It should have more practice during the seminar / training.  |             |
| ② It should provide participants with more kinds of meals.   | (INDONESIA) |



- \* First of all, I would like to extend my sincere thanks to the government of Japan and JICA, and pray that it will continue its sincere lecture and true aim, goals and objectives in sponsoring this scholarship. (PHILIPPINES)
- \* Our government is requested by JICA to send such participants who are familiar and good in English, but when we came, lectures are presented in Japanese language. Anyhow, when it is translated in English by the coordinator, then it is clear, but the video films demonstrated were in Japanese language. JICA may dub it in English for better understanding of the participants. (PAKISTAN)
- \* Should have practice and extend duration of the seminar. (MALAYSIA)
- \* I Think that these seminar can finish in two weeks, if it began at 8:00 A.M. (PARAGUAY)

2. 航空保安セミナー（旧・空港管理・保安セミナー）帰国研修員動向  
 \*下記PRESENT POSTを記入している帰国研修員に関しては、質問票回収、面談、セミナー参加をしている。

PHILIPPINES

No	NAME		ORGANIZATION & POSITION	PRESENT POST
1	MR. PEPITO M. DONAIRE	1988	AIR TRANSPORTATION OFFICE TECHNICAL OPERATIONS DIVISION AIRPORT MANAGER	AIR TRANSPORTATION OFFICE TECHNICAL OPERATIONS DIVISION AIRPORT MANAGER
2	MR. CELESTINO S. CONEL	1989	MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY INTERNATIONAL TERMINAL OPERATIONS DIVISION PORT OPERATIONS OFFICER III	MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY INTERNATIONAL TERMINAL OPERATIONS DIVISION TERMINAL SUPERVISOR C
3	MR. EUSEBIO REYNOR CHITO C. ESTEBAN	1989	MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY GROUND OPERATIONS DIVISION PORT OPERATIONS OFFICER III	MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY GROUND OPERATIONS DIVISION TERMINAL SUPERVISOR C
4	MR. ROBERTO B. GALVEZ	1990	AIRPORT POLICE DEPARTMENT INTERNATIONAL PASSENGER TERMINAL DIVISION SPECIAL POLICE CORPORAL	MANILA INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY AIRPORT POLICE DEPARTMENT INTERNATIONAL PASSENGER TERMINAL DIVISION SPECIAL POLICE CORPORAL
5	MR. JOSEPH V. TOGONON	1992	MACTAN-CEBU INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY (DOTC) AIRPORT POLICE CHIEF OPERATION	MACTAN-CEBU INTERNATIONAL AIRPORT AUTHORITY AIRPORT POLICE DIVISION DIVISION MANAGER

THAILAND

N O	N A M E	D U	O R G A N I Z A T I O N & P O S I T I O N	P R E S E N T P O S T
1	MR. M.L.YOM NGONROTH	1987	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND CONTROL & INSPECTION DIV. SEC. DEP. . DIRECTOR	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT DEPUTY DIRECTOR OF SECURITY DEPT.
2	MR. KAMOL PULPERM	1987	AIRPORT SERVICES DIV. DEPT. OF AVIATION AIRPORT SERVICES DIV. AIR TRANSPORT OFFICER	
3	MS. SAMERJAI CHUASUCHARIT	1988	BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT, AAT. CONTROL & INSPECTION DIVISION. SECURITY DEPT.	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT SECURITY DEPT. . CONTROL & INSPECTION DIV. . AIRPORT ADMINISTRATIVE PERSONNEL 6
4	MR. WITHOON PHUMPHURK	1989	DEPARTMENT OF AVIATION AIRPORT SERVICE DIVISION AIRTRANSPORT TECHNICIAN OFFICER	DEPARTMENT OF AVIATION AIRPORTS SERVICE DIVISION TRANSPORT TECHNICIAN OFFICER
5	MS. MONRUDEE GETTUPHAN	1990	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND SECURITY DEPARTMENT CHIEF OF ADMINISTRATION SECTION	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND SECURITY DEPARTMENT ADMINISTRATIVE SUB-DIVISION ADMINISTRATIVE PERSONNEL 6
6	MR. CHOWNONG SARNAKSORN	1991	DEPARTMENT OF AVIATION AIRPORT SERVICES DIVISION CHIEF, CIVIL AVIATION SECURITY BRANCH	DEPARTMENT OF AVIATION AIRPORT SERVICES DIVISION CHIEF, CIVIL AVIATION SECURITY BRANCH
7	MR. TIWA CHENGATIRONG	1992	DEPARTMENT OF AVIATION CIVIL AVIATION SECURITY DIVISION AIR TRANSPORT TECHNICIAN OFFICER	
8	MR. SUCHART KANNIM	1992	BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT, AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND, CONTROL & INSPECTION DIVISION, AIRPORT ADMINISTRATIVE PERSONNEL 5	AIRPORTS AUTHORITY OF THAILAND BANGKOK INTERNATIONAL AIRPORT SECURITY DEPT. . CONTROL & INSPECTION DIV. . ADMINISTRATIVE PERSONNEL 5